

日中同形語と授受動詞のコロケーションに関する誤用について

Misuse of Collocation in Japanese-Chinese Homographs Focusing on Giving-Receiving Verbs

Shizue Kawamura
河村 静江

要 旨

本稿では、日中両語で意味がほぼ同義の日中同形語 18 語を対象に、日本語の授受動詞とのコロケーションについて正誤判断テストを行うことにより、誤用、非用の傾向を調査した。台湾からの留学生 24 名に対して行った調査の結果、日中両語のコロケーションにずれが見られない場合、正答率が高く、ずれが見られる場合、正答率が低いという結果が得られた。また、特定の授受動詞が特に正答率が高いということはなく、「得る」や「与える」といった比較的難度の高い動詞であっても中国語からの類推が可能なのは正答率が高いことが分かった。「あげる」の誤用については、日本語の授受本動詞は恩恵のニュアンスを伴うことから「干渉」や「迫害」といったマイナスイメージの名詞とは共起しないのに対し、中国語では「給／給予」との共起が可能であるため、学習者は「あげる」を多く選択しており、母語の転移と見られる結果が得られた。

キーワード：日中同形語、授受動詞、コロケーション、誤用

1. はじめに

日本語を学習する中国語母語話者にとって、日中同形語が数多く存在することは、学習を進める際に非常に有利に働く。しかし、そのために、母語の干渉が起りやすく、両言語間の用法のずれが小さいほど、学習者はそれに気が付かず用いてしまい、日本語として不自然な表現となることが多い。その中でも、日常生活で頻繁に用

いられる「授受動詞」に関する日中両語のずれは学習者にとって認識しにくく、誤用や非用の原因となりやすい。例えば、中上級のレベルの学習者であっても、「調査の結果、以下の結果をもらった」といった文を産出することがある。これは「得到結果」という中国語のコロケーションが干渉をもたらしたと考えられる。しかし、同様に「風邪をひいた」という表現について、中国語では「得了感冒」という表現となるために、母語の転移を起こして、学習者が「風邪をもらった／得た」という文を産出するかというと、そうではない。学習者はほぼ例外なく「風邪をひいた」というコロケーションを作る。これは「風邪をひく」は日常生活でしばしば耳にし、また、初級の段階で学習する¹コロケーションであることから、習得が進んでいるためであると考えられる。このような例は、日中両語にずれがあれば、必ず学習者は誤用をおかすとは言えないことを示している。非用については、「風邪をもらう」という表現は、日本において日常生活で頻繁に用いる表現であるにもかかわらず、学習者の口からなかなか出てこないことが例として挙げられる。これは「風邪は『感染する』もので、『もらう』ものではない」という中国語からの発想が非用につながっているものと考えられる。

筆者は今回、日本語の授受動詞に関して、どのようなコロケーションが中国語母語話者にとって誤用や非用となりやすいかを明らかにするため、正誤判断テストを用いて調査を行った。調査対象語は、日中同形語で、かつ、ほぼ同義の名詞とした。意味の理解が容易で、干渉が起こりやすいと予測されるからである。なお、本稿で扱うコロケーションとは、「慣習的に共に用いられる自立語の結合体」を指す。

2. 先行研究

授受動詞文の日中対照研究については奥津（1984）、門和沙（2006）など、多くの研究があり、中国語話者の誤用や母語の転移については、安（1999）、河村（2007）張（2009）、馮（1995）、三國（2015）などの研究がある。馮（1995）は、適切な授受マーカーを「から」と「に」から選択させる課題、穴埋め課題、誤用訂正課題を日本人と日本語学習者に対して行っているが、例えば「病気をもらう」という中国語と一致しない表現に関するエラー率が長期学習者でも高いことなどから、母語の干渉は学習年数が経っても容易に減少しないと述べている。三國他（2015）は、日中両語で異なる連語に注目し、学習者に日本語文の誤文判断および訂正を行わせている。その

結果、日本語習熟度に比例して誤文訂正の正答率が上がるが、習熟度が高くなっても母語の連語知識をそのまま日本語に転用することがあると結論づけている。平野(2003)では、台湾人学習者に対して、主に「～であげる」といった補助動詞としての授受の誤用について調査しているが、その中で「地震がその地域に大きな被害を(くれた／あげた／与えた)」という文で適切な動詞を選択させるというテストを行っている。この問題の正答率が84.1% (148名)であり、正答率が高いと平野(2003)では述べているが、「被害」というマイナスのイメージを持つ名詞と「くれる」「あげる」という恩恵を表す授受動詞が共起すると判断して選択した学習者がいたという結果は本稿での調査結果とも重なる点がある。

3. 調査方法

まず、日中両言語でほぼ同義である日中同形語を選定した。「印象」「影響」「援助」「活力」「干渉」「議席」「訓練」「好評」「支持」「成果」「説明」「損失」「治療」「電話²」「同意」「能力」「迫害」「命令」の18語である。次に、これらの名詞と授受動詞「あげる」「与える」「くれる」「もらう」「受ける」「得る³」のうち、どのコロケーションが日本語として自然な表現であるかを日本語母語話者の大学生30名に対してアンケート形式で答えてもらった。それと同時に、「ヨミダス歴史館」及び「朝日新聞記事データベース『聞蔵Ⅱビジュアル』」で検索を行い、ヒット数を調査した。母語話者が自然であると答えても新聞に用例のないものやその逆のものがいくつかあり、そのようなはっきりしない例を排除するためである。中国語においては、授受動詞が多く存在する⁴が、今回は「給」「给予」「拿／拿到」「收／收到」「接／接到」「接受」「受／受到」「得／得到」とのコロケーションを対象とすることにした。まず、「Google 新聞」で用例の調査を行った後、複数の中国語母語話者の内省に従ってコロケーションが自然かそうでないかを判断してもらい、データの調整を行った。巻末の【資料】の【表1】が日本語、【表2】が中国語のコロケーションであり、「*」が自然なもの、「/」が自然ではないものである。【表1】の太枠部分は、新聞での調査で十分な用例があり、また、日本語母語話者が自然であると答えたもののうち、最も数が多かったもので、コロケーションの「典型例」とみなすことができるものである。つまり、「印象」は「与える」「受ける」「得る」という動詞とのコロケーションを作るが、そのうちの「与える」が典型例である。これらの典型例が正答となるよう、正誤判断

テストを作成した⁵。学習者の負担を考え、答えが1つになるよう3択問題を作成し、日本語学習者に、「日本語として正しい使い方をしているものを1つ」選択させた。調査対象の日本語学習者は、台湾からの留学生24名で、いずれもN2もしくはN1を取得している。

4. 調査結果及び考察

4.1 正答率の順位

順位	調査語	正答率	順位	調査語	正答率	順位	調査語	正答率
1	影響を与える	92%	7	活力を与える	71%	12	支持を得る	58%
2	好評を得る	83%	7	命令を受ける	71%	12	電話をもらう	58%
2	治療を受ける	83%	9	能力を与える	67%	15	損失を与える	50%
4	同意を得る	80%	10	議席を得る	63%	16	干渉を受ける	38%
5	訓練を受ける	75%	10	援助を受ける	63%	16	印象を受ける	38%
5	迫害を受ける	75%	12	成果を得る	58%	18	説明を受ける	21%

正答率が高い順に並べたものが上記の表である。「影響を与える」が92%と最も正答率が高く、「説明を受ける」が21%と最も低いという結果となった。また、動詞によって順位に偏りが出るといこともないことがわかった。例えば、「与える」の場合、「影響」は正答率が92%と高いが、「損失」の場合は50%と低く、「受ける」の場合は「治療」は正答率が83%と高いが「説明」は21%とかなり低くなっている。

学習者の誤用の傾向はそれぞれの母語によってかなり異なるが、漢字を使うという共通点を持つ日本語と中国語は特に母語の転移が起こりやすい。したがって、中国語母語話者にとって正解が容易かどうかは、中国語に類推可能な表現があるかどうかということと関係があると考えられる。学習者の類推が予測されるのは、日本語の「あげる」「与える」「くれる」が中国語の「给」「给予」、「もらう」が「拿/拿到」「收/收到」「接/接到」、「受ける」が「接受」「受/受到」、「得る」が「得/得到」である⁶。日本語の表現と似た中国語の表現がある場合で、日中両語の用法にずれがない場合は、正解が比較的容易であり、日本語とずれるものは正解が困難であるとの予測のもとに、「正解が比較的容易であると考えられるもの」と「正解が比較的困難であると考えられるもの」とに分けて、以下、考察を行っていく。なお、表の「○」は、

自然なコロケーション、「×」は不自然なコロケーションを指す。

4.2 正解が比較的容易であると考えられるもの…「同意」「影響」

調査語	学習者の解答数		日本語	中国語	調査語	学習者の解答数		日本語	中国語
同意	得る	19	○	○	影響	与える	22	○	○
	くれる	4	×	×		もらう	1	×	×
	あげる	1	×	×		得る	1	×	×

正答である「同意を得る」を選択した学習者は19名、「影響を与える」を選択した学習者は22名であった。結果を見ると、予測したとおり正答率が高かった。特に、「影響」はほとんどの学習者が迷うことなく解答している。これは、中国語では「**給／给予影响**」というコロケーションが自然であるからだと考えられる。興味深いことは、中国語では「**受／受到影响**」と言えるのに、「もらう」を選択している学習者が1名にとどまっていることである。これは「**受／受到**」は「**受ける**」であって「**もらう**」ではない、との判断が働いた可能性を示している。あるいは「**影響を受ける**」という日本語のコロケーションを学習済みで、「日本語で『**受ける**』とは言えるが『**もらう**』とは言えないのではないか」との推測が働いたとも考えられる。なお、「得る」も「与える」も、初級で最初に学習する「もらう」や「あげる」という授受動詞と比べると、日常会話での使用頻度がかなり低く、非漢字圏の学習者であったり、日本語に習熟していない学習者であったりすれば、選択するのをためらうのではないかとと思われる⁷。今回の調査結果のように解答が分散していないのは、「日本語のコロケーションを学んで知っていた」というより、「母語からの類推によって解答を選択した」可能性が高いことを示唆している。「あげる」と「与える」は共に、相手への遠心的な移動を表すため、非中国語母語話者であれば選択に迷うはずである。基本義や移動の方向は変わらないのにも関わらず、中国語では不自然なコロケーションである「同意をあげる」を選択した学習者は1名のみで、自然なコロケーションである「影響を与える」を選択した学習者は22名いたということが、母語の転移によって正誤の判断がなされたことを示していると言える。

4.3 正解が比較的困難であると考えられるもの

(1) 中国語から類推できる表現が選択肢にないもの…「損失」「能力」「活力」

調査語	学習者の解答数		日本語	中国語	調査語	学習者の解答数		日本語	中国語
損失	与える	12	○	×	能力	与える	16	○	×
	もらう	7	×	×		くれる	5	×	×
	得る	5	×	×		受ける	3	×	×
活力	与える	17	○	×					
	あげる	5	×	×					
	受ける	2	×	×					

これらのコロケーションは中国語では不自然であり、解答が困難であると予測されるものである。正答である「損失を与える」を選択した学習者は12名、「能力を与える」は16名、「活力を与える」は17名で、前述の「同意」「影響」と比べると、解答にかなりばらつきが見られることから、学習者の迷いがうかがえるが、いずれも正答率は低くなかった。「損失」については、日本語では「与える」及び「受ける」とのコロケーションを成すが、中国語は「接受」「受／受到」とのコロケーションのみで「与える」に相当する表現がないため、中国語から類推できる表現がないことになる。「受ける」は選択肢になかったことから、学習者は「もらう」「得る」のどちらかを選択したため、解答が分散したのと考えられる。「与える」という遠心的な移動を表す動詞を選択した学習者が12名、「もらう」「得る」という求心的な移動を表す動詞を一まとめとして考えた場合、こちらも12名となり、「損失を与える」が正しいという確信を持って選択したのではない可能性がある。「能力」については、日本語では「与える」及び「得る」とのコロケーションを成すが、中国語では「得到」のみであり、「得る」は選択肢にない。「損失」の結果よりは正答率が高いが、同様に「くれる」「受ける」を求心的な移動を表すものとして一まとめとして考えると8名の学習者が選択しており、少ないとは言えない。「活力」については、【表2】で示されている通り、中国語では授受動詞とのコロケーションがない。しかし、「活力」には「注入活力」という授受動詞を用いないコロケーションがあり、これが「与える」「あげる」の選択に影響したとも考えられる。「与える」「あげる」のどちらかを選択した学習者は22名で「損失」「能力」の結果と比べるとかなり多いという結果だった。

(2) 中国語から類推できる表現が日本語では誤用となるもの…「説明」「印象」「成果」

調査語	学習者の解答数		日本語	中国語	調査語	学習者の解答数		日本語	中国語
説明	受ける	5	○	×	印象	受ける	9	○	×
	あげる	9	×	○		あげる	11	×	○
	くれる	10	×	○		もらう	4	×	×
成果	得る	14	○	×					
	もらう	10	×	○					
	受ける	0	×	×					

これは、中国語で自然なコロケーションを選択すると誤答となるものである。正答である「説明を受ける」を選択した学習者は5名、「印象を受ける」は9名で、いずれも他の解答の方が多く選択されており、正答率が著しく低かった。「説明」については、中国語では「給／给予」とのコロケーションのみで、「受説明」とは言えない。「先生から説明を受ける」という日本語は中国語に直訳できず、「先生が私に説明をあげる／くれる」と表現することになる。その結果、「あげる」「くれる」のいずれかを選択した学習者は19名に上り、母語の転移をうかがわせる結果となっている。「印象」についても、中国語では「给」とのコロケーションのみで、「受印象（印象を受ける）」という表現はないことから、正答である「受ける」の数を上回る学習者が「あげる」を選択したものと見られる。「成果」については、「成果を得る」を選択した学習者は14名で、「説明」「印象」のように誤答が正答を上回ることにはなかったが、「もらう」を選択した学習者が10名おり、中国語の「收到」からの類推により「もらう」が多く選択されたと考えられる。「受ける」を選択した学習者がいないのは「成果をもらう」と比較した場合にコロケーションがより不自然に感じられたために選択を避けたと推測できる。

(3) 中国語から類推できる選択肢が2つ以上あるもの…
 「干渉」「電話」「支持」「議席」「援助」「命令」「迫害」「訓練」「治療」「好評」

調査語	学習者の解答数	日本語	中国語	調査語	学習者の解答数	日本語	中国語		
干渉	受ける	9	○	電話	もらう	14	○	○	
	あげる	10	×		○	あげる	8	×	○
	もらう	5	×		×	得る	2	×	○
支持	得る	14	○	議席	得る	15	○	○	
	くれる	7	×		○	くれる	5	×	○
	あげる	3	×		○	受ける	4	×	×
援助	受ける	15	○	命令	受ける	17	○	○	
	あげる	7	×		○	もらう	5	×	○
	くれる	2	×		○	得る	2	×	○
迫害	受ける	18	○	訓練	受ける	18	○	○	
	あげる	5	×		○	得る	1	×	○
	くれる	1	×		○	もらう	5	×	×
治療	受ける	20	○	好評	得る	20	○	○	
	あげる	1	×		○	あげる	3	×	○
	得る	3	×		×	くれる	1	×	○

これは、中国語で自然なコロケーションを選択すると正答となるが、中国語で自然なコロケーションが複数あるため、正答を見極めるのが難しいと予測したものである。上の表は正答率の低いものから順に並べた。最も正答率が低いのは、「干渉を受ける」で、選択したのは9名のみで、「干渉をあげる」を10名の学習者が選択していることから誤答が正答を上回るという結果となった。ここで、「あげる」に注目してみると、「電話をあげる」が8名、「支持をあげる」が3名、「迫害をあげる」が5名、「援助をあげる」が7名、「治療をあげる」が1名、「好評をあげる」が3名と、「あげる」を選択する学習者が多いことがわかる。【表1】を見ると明らかなおとり、今回の調査語で「あげる」と結びつく日本語のコロケーションはない。「くれる」「もらう」が典型例であるものもほとんどなく、「与える」「受ける」「得る」が典型例となるものが多い。具体物の授受の場合、「あげる」「くれる」「もらう」がほとんどの場

合可能となるが、今回の抽象的な名詞が授受動詞とコロケーションを作る場合はこれらの授受本動詞は現れにくい。「電話をあげる」は電話をかける意味ではなく「電話機をあげる」という意味となり今回の調査では誤答となるが、中国語においては「電話をあげる」は行為を表すことが可能である。中国語の「**我给他个电话**。(私は彼に電話をあげた=私は彼に電話をしてあげた)」という表現が、学習者が選択する際に影響を与えたと考えられる。また、日本語では「干渉」や「迫害」といったマイナスイメージの名詞と「あげる」は最もコロケーションを作りにくい。学習者が「あげる／くれる／もらう」、また「～てあげる／くれる／もらう」の学習を通して、これらの授受動詞に「恩恵」のニュアンスがあることを熟知しているにも関わらず、「あげる」を選択したというのは、やはり中国語の「**給**」が頭に浮かび、それが解答に影響を与えていると言えるだろう。次に、「受ける」に注目してみると、「受ける」が正答のものについては、「干渉」が最も正答率が低い。授受動詞の「受ける」は中立的な授受動詞で、例えば、「時間をあげる」や「電話をくれる／もらう」には恩恵のニュアンスが加わるが、「電話を受ける」にはそのようなニュアンスはない。「受ける」が正答のもののうち、正答率が高くなっているのは、「治療を受ける」で、20名の学習者が選択している。中国語では「**給／给予／接受治疗**」というコロケーションが可能で、今回の調査では「治療をあげる／受ける」という選択肢があるために、選択が困難であると予測されたものである。結果は「あげる」を選択した学習者は1名のみで、正答率がかなり高かった。「治療を受ける」というコロケーションは日常生活でよく使われるために習得が進んでいるとも考えられるし、医者でない限り「治療する」より「受ける」立場の方に立つことから「あげる」が選ばれにくかったとも考えられる。なお、テスト後、学習者に「『子供にはよい治療をあげたい』という日本語の文は正しいと思うか」という質問をしてみたところ、ほとんどの学習者は「正しい」と答えた。このことから、今回は誤答を避けることができたが、「治療をあげる」という1文のみを提示された場合や自分で文を産出する際に誤用となる可能性は高いと思われる。「得る」に注目してみると、「得る」が正答のものについては、「支持を得る」が14名、「議席を得る」が15名、「好評を得る」が20名と、かなり正答率が高いことがわかる。「得る」は前述したとおり、日常会話ではあまり使われない動詞であるにも関わらず、解答が分散することなく正答が選ばれている。「電話」「訓練」「命令」も中国語では「得」と結びつくが、それらで「得る」を選択している学習者

は少ない。学習者は中国語で可能な表現をやみくもに選択しているわけではなく、「電話をもらう」「訓練／命令を受ける」が日本語では正しい表現だろうと推測したり、日常生活で見聞きし、学習を進めていく中で日本語でより自然なコロケーションを選択できるようになっていることが調査結果からうかがえる。あるいは、中国語でも「得電話／訓練／命令（電話／訓練／命令を得る）」より「收／接電話（電話をもらう・電話に出る）」「接受訓練／命令（訓練／命令を受ける）」の方が、より使用度が高く自然なコロケーションであることから、これらを選択したという可能性もある。

5. まとめ

今回の調査により、日中両言語でコロケーションにずれがない「同意を得る」「影響を与える」などは正答率が高く、ずれがある「説明を受ける」「印象を受ける」などは正答率が低いという結果が得られ、学習が進んだ中上級の日本語学習者においても母語の転移がかなり見られることが明らかとなった。また、特定の授受動詞が特に正答率が高いということはなく、「得る」や「与える」といった比較的難度の高い動詞であっても中国語からの類推が可能なものは正答率が高いという結果となった。また、日本語では特に「あげる」という授受本動詞が恩恵のニュアンスを伴うことから「干渉」や「迫害」といったマイナスイメージの名詞とは共起しないのに対し、中国語では「給／给予」との共起が可能であるため、学習者は「あげる」を多く選択しており、母語の転移の可能性が高いことが明らかとなった。

学習者が選択を誤ったもののうち、学習者の5名以上が選択しているものを挙げると、「あげる」については、「活力」「説明」「印象」「干渉」「電話」「援助」「迫害」の7語、「もらう」については、「損失」「成果」「干渉」「命令」「訓練」の5語、「くれる」については、「能力」「説明」「支持」「議席」の4語、「得る」については「損失」の1語であった。これらの誤用の可能性が高いと言えるが、このうち、「損失」「能力」「活力」については、中国語での類推ができなかったため選択されたとも考えられ、5名以上選択したといっても、誤用につながるとは言えないだろう。

非用の可能性としては、「説明を受ける」「印象を受ける」「成果を得る」の3語について、中国語の語感となじまないため非用が起る可能性があると考えられる。

授受動詞は、日常生活で多く用いられるものであるため、誤用が頻繁に現れるが、

母語の表現と微妙に異なる場合が多いため、一つ一つ覚えていくしか方法はなく、また自分で訂正することはかなり難しい。抽象名詞は「あげる」「くれる」といった動詞は取りにくく、その代わりに多くの場合は「与える」が用いられることなど、コロケーションの傾向を示した上で、丁寧な指導を進めていく必要があるだろう。

資料

正誤判断テスト

★日本語の正しい使い方はどれだと思いますか。一つだけ○をつけてください。

- | | |
|-------------------------------------|-------------------------------------|
| ①「印象」をあげる ()
もらう ()
受ける () | ⑩「成果」をもらう ()
受ける ()
得る () |
| ②「影響」を与える ()
もらう ()
得る () | ⑪「説明」をあげる ()
くれる ()
受ける () |
| ③「援助」をあげる ()
くれる ()
受ける () | ⑫「損失」を与える ()
もらう ()
得る () |
| ④「活力」をあげる ()
与える ()
受ける () | ⑬「治療」をあげる ()
受ける ()
得る () |
| ⑤「干渉」をあげる ()
もらう ()
受ける () | ⑭「電話」をあげる ()
もらう ()
得る () |
| ⑥「議席」をくれる ()
受ける ()
得る () | ⑮「同意」をあげる ()
くれる ()
得る () |
| ⑦「訓練」をもらう ()
受ける ()
得る () | ⑯「能力」を与える ()
くれる ()
受ける () |
| ⑧「好評」をあげる ()
くれる ()
得る () | ⑰「迫害」をあげる ()
くれる ()
受ける () |
| ⑨「支持」をあげる ()
くれる ()
得る () | ⑱「命令」をもらう ()
受ける ()
得る () |

【表1】

調査語	あげる	与える	くれる	もらう	受ける	得る
印象	/	*	/	/	*	*
影響	/	*	/	/	*	/
援助	/	*	/	*	*	*
活力	/	*	*	*	/	*
干渉	/	/	/	/	*	/
議席	/	*	/	*	/	*
訓練	/	/	/	/	*	/
好評	/	/	/	/	/	*
支持	/	*	/	*	*	*
成果	/	/	/	/	/	*
説明	/	*	/	*	*	*
損失	/	*	/	/	*	/
治療	/	/	/	/	*	/
電話	/	/	*	*	*	/
同意	/	*	/	*	*	*
能力	/	*	/	/	/	*
迫害	/	/	/	/	*	/
命令	/	*	/	/	*	/

【表2】

調査語	給	给予	拿/拿到	收/收到	接/接到	接受	受/受到	得/得到
印象	*	/	/	/	/	/	/	/
影响	*	*	/	/	/	/	*	/
援助	/	*	/	/*	/	*	*	*
活力	/	/	/	/	/	/	/	/
干渉	/	*	/	/	/	/	*	/
议席	*	/	*	/	/	/	/	*
训练	/	*	/	/	/	*	/*	/*
好评	*	*	/	*	/	/	*	*
支持	*	*	/	/	/	/	*	*
成果	/	/	/	/*	/	/	/	/
说明	*	*	/	/	/	/	/	/

調査語	給	给予	拿／拿到	收／收到	接／接到	接受	受／受到	得／得到
損失	/	/	/	/	/	*	*	/
治疗	*	*	/	/	/	*	/	/
电话	*	/	/	*	*	/	/	*
同意	/	/	/	/	/	/	/	*
能力	/	/	/	/	/	/	/	/*
迫害	*	*	/	/	/	/	*	/
命令	/	*	*	*	*	*	/	*

注

- 「風邪をひく」は N5 レベルの表現である。
- 「電話」は電話機の授受ではなく「電話をかける」用法に限定した。
- 「得る」は「取得」に関わる動詞であり、授受動詞ではないが、授受動詞に関する誤用が多数みられるため、今回は授受動詞として扱う。
- 奥津（1984）参照。
- 典型例を正答としたのは、日本語母語話者でも判断が分かれるものが多いからである。例えば、「影響をくれる」や「干渉を得る」など、筆者には不自然であると思えるものでも「自然である」とする日本語母語話者がいる。これらは新聞での用例が見られなかったため「用例なし」と判断したが、もし用例が多数あれば「用例あり」とするしかない。こういった例が正答となれば日本語母語話者でも判断が難しいテストとなってしまうことから「典型」を重視した。実際に行ったテストは巻末に挙げた。
- 「もらう」「受ける」「得る」がいずれも受け手への求心的な方向を指す動詞であり、中国語のどの動詞と対応するかというのは文脈によるところが大きい。本調査での分類は一時的、便宜的なものである。
- 「あげる」「くれる」「もらう」「受ける」は N5 から N4 レベルの語彙であるが、「与える」「得る」は N3 から N2 レベルの語彙であり、レベルとしては「与える」「得る」の方が高い。
- 中国語では「我想给予孩子好的治疗」という表現が可能である。

参考文献

- 安龍洙 (1999) 「日本語学習者の漢語の意味の習得における母語の影響について—韓
国人学習者と中国人学習者を比較して—」『第二言語としての日本語の習得研究』
3 第二言語習得研究会
- 奥津敬一郎 (1984) 「授受動詞文の構造—日本語・中国語対照研究の試み—」『金田一
春彦博士古稀記念論文集』第2巻 言語学編
- 門和沙日娜 (2006) 「日中対照研究 授受表現」『昭和女子大学大学院語教育・コミュ
ニケーション研究』1 昭和女子大学
- 河村静江 (2007) 「日中同形語のコロケーションに関する誤用及びその習得状況—「獲
得」「発揮」「実施」「提出」を例として—」『2007 国際学術研究会応用語文組論
文集』銘傳大学
- 河村静江 (2008) 「日中同形語のコロケーションの差異について」『日本語言文化研
究』第8輯 学苑出版社
- 張麟声 (2009) 「作文語彙に見られる母語の転移—中国語話者による漢語語彙の転移
を中心に—」『日本語教育』140 日本語教育学会
- 馮富榮 (1995) 「中国人の日本語授受文の学習過程における母語 (中国語) の影響に
ついて」『名古屋大学教育学部紀要』42 教育心理学科
- 平野真弓 (2003) 「日本語教育における授受表現について—中国語母語話者の場合を
を中心に—」『聖心女子大学大学院論集』第25集
- 三國純子・小森和子・徐一平 (2015) 「中国語を母語とする日本語学習者の漢語連語
の習得—共起語の違いが誤文訂正に及ぼす影響—」『中国語話者のための日本語
教育研究』6号

データベース

「ヨミダス歴史館」読売新聞

「朝日新聞記事データベース『聞蔵Ⅱビジュアル』」朝日新聞

「Google 新聞」<http://news.google.co.jp/news?ned=cn&hl=zh-CN>